

外来化学療法部

■ スタッフ

部長	水野聡朗
副部長	小林哲 井上靖浩
看護師	小林やよい
薬剤師（主任）	日置美紀 石橋美紀

■ 診療科の特色・診療対象疾患

1. 外来化学療法部とは

近年、がんに対する薬物療法は、目覚ましい進歩を遂げ、外科手術、放射線治療とともに重要な位置を占めています。様々な腫瘍で薬物療法が実施されていますが、その多くが、生活の質（Quality of Life : QOL）の観点から外来治療として実施されています。

このような背景から、2015年5月にオープンしました新外来棟では、外来化学療法部は治療ユニットを34に増床しました。2015年6月から2016年5前までの診療実績を以下に提示します。

2. 主な診療対象疾患

がん薬物療法を専門とするスタッフ（医師、看護師、薬剤師）のもと、関係する診療科と緊密に連携して治療を行っています。

標準的治療のほか、新規治療開発のための臨床試験、治験なども実施しております。

主な対象疾患は下記の通りです。

- 固形腫瘍（肺癌、乳癌、大腸癌など）に対する薬物療法
- 悪性リンパ腫など造血器腫瘍に対する薬物療法
- 小児癌に対する薬物療法
- 炎症性腸疾患・リウマチに対する薬物療法

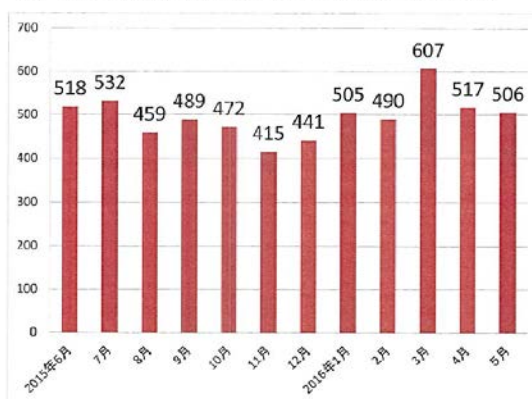
■ 診療体制と実績

2015年6月から2016年5前までの診療実績を以下に提示します。

● 月別の治療実施件数

新しいシステムにある程度慣れた昨年秋以降は、これまで受け入れ制限をしてきた一部の治療レジメンも開放しました。その結果、徐々にではありますが、実施件数は増加しております。

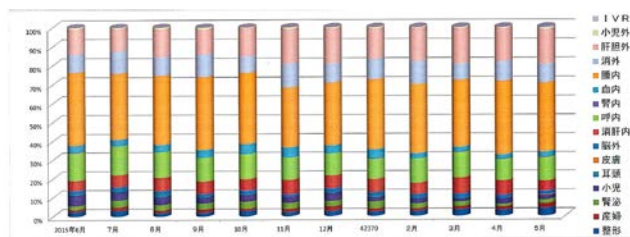
(1) 外来化学療法加算月別件数(2015年56~2016年5)



● 診療科別の実施件数

診療科での割合は、大きくは変わっておりません。腫瘍内科、呼吸器内科、肝胆膵外科、消化管外科、消化器内科からの治療依頼が多いです。

今後、新たな診療科からの受け入れについても検討してまいります。



今後さらなる増加が見込まれる外来化学療法に対応するためには、実施時間・曜日などの偏りの是正などが必要になってくると考えられます。月曜日の治療実施数は他の曜日に比較して少ない状況にあります。

治療実施の増加は、医療事故の発症リスク増も懸念されるため、利用手順マニュアルの改正、緊急時

の連絡先の確認、緊急時の対応マニュアル策定などのあわせて行っております。

■ 臨床研究等の実績

本年の臨床腫瘍学会（神戸）で、外来化学療法における薬剤師の患者面談についての有害事象における影響について報告した。

▶ http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/bumon/gairai_kagaku/